

令和6年度みやぎ工業会サロン 実施報告

2024年9月2日
みやぎ工業会・事務局

このたび、令和6年度みやぎ工業会サロンを開催しましたので、ご報告いたします。

みやぎ工業会サロンとは、過去3年以内に入会された新会員の方々と、理事長、副理事長、交流推進委員等に参加して頂き、現状の課題や当会への期待などを語り合って頂くことで、会員同士の交流を深め、また新会員の皆様に工業会を有効に活用して頂くことを目的に開催している交流会です。

今回は新任の役員と梵天会の方にもご案内し、グループ討議には20名の方に参加して頂きました。

1. 開催概要

■開催日：令和6年8月28日(木) 13:20～15:20

■場所：仙都会館 7階D会議室

■内容

1. 開会挨拶：交流推進委員会 委員長 千葉 貴之 氏

2. 議事

(1) 参加者紹介（事務局）

◇新会員、梵天会

◇新規就任役員、理事長・副理事長、交流推進委員

(2) みやぎ工業会の概要紹介（事務局）

◇各委員会、主要行事の紹介等

(3) グループ討議（4グループに分かれての意見交換会）

◇自己紹介 現状の課題

◇みやぎ工業会に期待すること etc

(4) グループ討議のまとめ発表

3. 開会挨拶：交流推進委員会 副委員長 川島 国樹 氏

2. 参加者

< 敬称略 >

No	区分	社名・機関名	役職	参加者氏名	GRP	備考
1	新会員	(有)千田清掃	執行役員部長	鈴木 一夫	A	R3 年度入会
2	新役員	(株)旭商会仙台店	代表取締役	和田 剛和	A	R6 年役員就任
3	梵天会	グローテック(株)	取締役	川上 大介	A	発表者
4	理事長	岩機ダイカスト工業(株)	代表取締役社長	鎌田 充志	A	
5	交流推進委員	東通インテグレート(株)	執行役員事業部長	川島 国樹	A	GRP 討議進行役
6	新会員	(有)千田清掃	執行役員営業部長	野々村 隆一	B	R3 年度入会
7	新役員	安住電機(株)	代表取締役社長	安住 徹	B	R6 年役員就任
8	新役員	(株)仙台ニコン	人事・総務部長	中島 明	B	発表者
9	梵天会	バイスリープロジェクト(株)	営業部	菅野 祐一郎	B	
10	副理事長	(一社)みやぎ工業会	特任顧問	白幡 洋一	B	
11	交流推進委員	東北パイプターン工業(株)	営業部長	金原 太郎	B	GRP 討議進行役
12	新会員	(株)ウイングシステムズ	代表取締役	小野寺 伸浩	C	R4 年度入会
13	新会員	(株)ミュージナル	営業部長	本田 裕二	C	発表者
14	副理事長	プラスエンジニアリング(株)	取締役事業所長	浅野 謙一郎	C	
15	技術交流委員	(一社)みやぎ工業会	コーディネータ	厨川 純一	C	GRP 討議進行役
16	新会員	リコーインダストリー(株)	常務執行役員	庄司 勝	D	R6 年度入会
17	新役員	(株)旭商会仙台店	第 2 営業部	和田 悠佑	D	
18	梵天会	バイスリープロジェクト(株)	サブマネージャー	備前 克英	D	
19	副理事長	通研電気工業(株)	取締役社長	菅野 秀幸	D	
20	交流推進委員	(株)千葉出版印刷	代表取締役	千葉 貴之	D	進行役、発表者
21	梵天会	(株)富士精密	代表取締役社長	鈴木 大介		当日欠席
22	交流推進委員	(株)ブレイン	取締役副会長	鈴木 英信		当日欠席
22	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	専務理事	青沼 廣利		
24	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	事務局長代理	尾形 武則		
25	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	事務局員	高橋 ちより		

◆参加人数（全 23 名、当日欠席 2 名）

- ・新会員（R3 年以降入会）：5 名
- ・新役員（R6 年度就任）：4 名
- ・梵天会：3 名
- ・理事長、副理事：4 名
- ・交流推進委員等：4 名
- ・事務局：3 名

3. グループ討議について

参加者が4つのグループに分かれて、困りごとなど、様々なテーマでディスカッションを行い、最後に各グループの議論の内容を発表して頂いた。ほとんどのグループで人材不足を中心に議論が行われた。

3.1 グループA 発表者： グローテック(株) 川上氏

現状の課題として、人材不足を中心に議論した。

「人材不足について」

- ・地方の場合は需要と供給のバランスがとれているのか、意外と人材はいるという意見が出された。今の人たちは、情報を取るためにわざわざ都会に出るということはない。地方にいても情報はいくらでも取れるため、近場の会社に入って、そこにずっと勤め続けるという、地元志向の若者も増えてきていると思う。逆に仙台の方が、求人に関する競争力が高すぎて、人が集まらないんじゃないかという話が出た。また、そうは言っても、やはり人材が集まらず、対応策として、海外からの人材を実験的に受け入れているという企業もあった。
- ・また、最初から新卒の採用を諦め、中途採用にシフトしていくという意見も出された。中途採用であれば、前職で社会の理念や常識を教えてもらっているため、十分通用するのではないかというもの。その一方で、中途採用のデメリットに関する意見も出された。その会社では、中途採用により、ここ1、2年で人員が一気に増え、前職で課長やグループリーダに従事していた人もいる。しかし、大企業と中小企業では異なる部分があるにもかかわらず、前職の経験だけで、中小企業には合わないマネジメントをしたり、全く関係のない方向に進んでいくなどの問題もあった。管理職やマネジメント層の場合は、中途採用をするにしても、何年かは自分たちの会社で育ててからでないと、うまくいかないと思うという意見が出された。
- ・今の人たちは、新卒で入社しても、長くその会社に勤め続けるという考えは持っておらず、入社した時点で求人サイトに登録する人が多い。また高校生や大学生の就職でも、就職課や先生に相談するのではなく、求人サイトで企業を探しているのが実態だと思う。そうなってくると、人を採ることに注力するのではなく、離職を減らすこと、会社の魅力を持たせて辞めさせないようにすることが重要という意見が出された。
- ・若い人たちの離職を防ぐにはどうするか、若い人たちが求めているものは何かということについて議論したところ、福利厚生が重要ではないかという結論になった。お金や企業理念などではなく、ちゃんと休みがあるのか、残業はどうか、決まった時間に帰れるのか、おそらく、そういうことが一番重要視されていると思う。

「若い人たちとのコミュニケーションについて」

- ・どうやって若い人たちとのコミュニケーションを図っていくかということについても意見交換をした。昔のように、飲みに行くということではできないため、コミュニケーションツールとしては、パソコンでメールをするよりも、LINE WORKS などを使って、LINE で会話する方が気に入っている人たちがいる。また、ある会社では、「ありがとう」という言葉の代わりにコインを送るようなサイトを作り、従業員同士が何か仕事をしてもらったら、「ありがとう」のコインを送り合っている。そのコインが、最終的にはいろいろな対価に変わっていくというもの。このように、若い人たちと、どうやってコミュニケーションをとっていくのか、またそのためのツールが非常に大事だという意見が出された。

「その他」

- ・ハラスメントについても話題になった。若い人たちはハラスメントに敏感で、多くの情報を持っているが、我々の世代は、実際はハラスメントなのに、ハラスメントではないと思いこんでいることがあるため、もう少し知識を増やしていかなければならない。例えばみやぎ工業会で、このようなハラスメントの講習会をやってもいいのではないか、という意見が出された。

3.2 グループB 発表者：(株)仙台ニコン 中島氏

「現状の課題について」

- ・現状の課題として、事業を進める上での悩み、及び人材確保の2つが挙げられた。事業を進める上での悩みとして、例えば、使用後の食用油を回収してバイオ燃料を製造している会社では、燃料を製造するためのタンクや蒸留装置を手掛けてくれる会社がなかなか見つからないということがあつた。このようなことは、工業会を道具として活用する材料の一つになるのではないかと。
- ・人材の悩みについては、皆さんの認識の通り、新卒者がなかなか県内に留まってくれないということがある。特に技術系については、中央に流出してしまつて県内には残らないし、また製造業は3Kのイメージで見られがちで、立場が微妙で人が集まらない。対応策として、今は地道にやっていくしかなく、ツールを使つたり、インターンを利用したり、あるいは海外人材の活用を検討したりなどがあるが、この点についても、もう少し工業会を道具として活用できないかと。

「工業会に期待すること」

- ・工業会に期待することとして、一つは工業会全体の集まりだけでなく、もう少し狭い範囲、例えば地区単位のような集まりを、もっと活性化できないかということが挙げられた。先程の事業を進める上での悩みにもあつたように、事業に必要な設備を手掛けてくれる会社がなかなか見つからないことがあるが、近場の集まりが活性化することで交流が進み、こういうものは造れないかなど、仕事の話をする機会も増えてくると思う。例えば、大阪の方では、地区ごとにそういう集まりがあつて、実にそれが機能しているとのこと。もちろん、同じことをすぐに宮城でやるには、色々な課題があり、また取りまとめ役を誰がやるのかという問題もある。負担が大きければ、誰もやりたがらないし、長続きしない。地区単位の集まりの活性化など、工業会としての発展は、そういうところにあるんじゃないかという意見が出された。
- ・もう一つは、私の所属する情報委員会にも密接に関係するが、工業会のホームページや情報がなかなか利用されておらず、活用に関して課題が多いということ。例えば、工業会のホームページで各社のCMを流したり、あるいはSNSも活用してもっとPR活動をするなど、会員企業の情報を広く発信することができれば、マッチングや人材確保にもつながる可能性がある。この点についても、工業会の果たすべき役割として、検討の余地があると思う。

3.3 グループC 発表者：(株)ミュージグナル 本田氏

「現状の課題について：人材確保」

- ・現状の課題については、人材確保に絞つたディスカッションを行った。内容は、困りごとに関する議論というよりも、うまくいった事例に関する情報交換である。1つ目の事例は中学生向けのインターンに関する成功事例で、数年後にあのときの社長さんのところで働きたいと面接に来てくれたというもの。中学2年生のときにインターンでIT関連の会社に来た生徒に対して、他の会社では草むしりなどをさせたところもあつたが、その会社では社長がソフトウェアとして、ゲームを作るプログラムを教えた。その体験がすごく効果的だったのか、現在は専門学校に進学したその学生が、社長を頼って会社訪問に来てくれて、来春の入社が決まったとのこと。
- ・2つ目の事例は、高校新卒者を入社後に会社の費用でポリテクに送り込み、教育しているというもの。助成金が活用できるため、学費は全て会社負担というわけではなく、またすぐに辞められると困るため、期間内に辞めた場合は学費を支払うという数年縛りの契約を結ぶ。そうやって教育することで、若い社員を進化させ、また早い段階での離職を防止している。

「みやぎ工業会をどのように活用するか」

- ・みやぎ工業会に期待することという切り口ではなく、みやぎ工業会をどのように活用するかというアイデアの話になった。1つ目は、みやぎ工業会・事務局が推薦を行っている技能者表彰や創意工夫功労者賞を活用して、会社の活性化につなげたらどうかというもの。社員のやる気とか、そういう方向に繋がられるのではないかと。

- ・2つ目は、工業会に入会することで、会員企業と仲良くなり、情報交換することができるようになるため、工業会を会員同士で協業できるような場にしてきたいというもの。例えば、IT 関連企業である我々と、製造業の会員企業の間で、どのようにものづくりを行っているのか、設備はどうされているのかなどの情報交換を行い、仮に困りごとがあったら一緒に協業して解決に向かうような、工業会をそんな場にしていきたい。
- ・3つ目は、知財や契約書の類など、工業会が何でも相談できる場になればいいというもの。
- ・最後に、工業会の委員会に参加すると、委員会メンバーの会員企業と交流する機会が増えるため、委員会に入った方がいいという意見が出された。

3.4 グループD 発表者：(株)千葉出版印刷 千葉氏

「現状の課題について」

- ・人材確保については、これまでの3グループと大体同じような議論をしていて、つけ加えるとすれば、最近は転職が比較的当たり前になっていて、中途採用が取りやすく、また増えているんじゃないかという話が出た。

「工業会に期待すること」

- ・人材確保にもつながるが、コロナ禍前に学院大や東北工大でやっていたような、会員企業の会社説明会を是非、再開して欲しい。
- ・会員企業には、新入会員のためか、他の会員と繋がっていない会社が数多くいるように思う。会員企業と交流するには、工業会主催のイベントに参加するだけでは足りないため、各委員会に参加するのが一番いいという意見が出された。

「その他」

- ・最近はBCPのリスクが上がっていて、地震や台風、サイバーテロなども含めて、気をつけていかなければならないことが増えている。
- ・雑談レベルで結論は出なかったが、従業員のエンゲージメントをどうしていくか、ということについても意見交換を行った。
- ・講演会やセミナーについても話題になった。6月の通常総会での講演は、多くのグラフやデータを駆使した講演で、非常に難しかったが、最新の技術や、最近の国内、県内の動向など、これから先のことや、世の中の流れのようなものをこれからも知っていきたいため、今後もあのような講演会、セミナーや勉強を実施して欲しいという意見が出された。

4. グループ討議の様子



グループ A



グループ B



グループC



グループD

以上